

Donald McDonald House Charities Japan Annual Report 2006

2006年 年間報告書



財団法人 ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン
〒163-1339 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー39階
TEL:03-6911-6068 FAX:03-6911-6198
<http://www.dmhcj.or.jp>

財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン

Special Story

Letter from Mother

私たちを支えてくださっている皆さまへ

私の2歳の娘、芽依は脳の難病を病んでいます。地元、宮崎では専門的な治療が受けられないため、東京の国立成育医療センターで治療を受けています。

この2月20日にも手術をしました。何回も手術はしているのですが、今回は上手くいかずに翌日緊急手術をしました。

娘はちょうど妊娠8カ月のときに脳の難病ということがわかりました。誕生後に東京での治療が必要になり、そのときに小児科の先生から、「マクドナルドハウス」のことを教えていただきました。病院の隣にあるので、いつでも娘のそばにいられ、疲れたらひとりで休むこともできるので、私たち病気の子どもを持つ家族にとっては本当に嬉しい施設です。自分たちで自炊もできる上に、図書室があったり、コンピュータールームがあったりとホテルのような設備なのに、1泊1,000円という費用は、経済的負担も少なく助かります。

また、同じような境遇のお母さんたちと仲良くなり、励まされたり、悩みを打ち明けたり、つらいのは自分たちだけではないと実感し、勇気が出てきます。

「いってらっしゃい」「おかえりなさい」とボランティアの方たちもいつも声をかけてくださり、家にいるような温かいムードに心が和みます。

子どもの入院という気持ちが沈みがちになってしまいましたが、この「ハウス」に滞在していると希望が持てる、前向きになれる、そんな気持ちになってくるから不思議です。

私の場合、芽依のほかに小学校1年生と7カ月のふたりの子どもがいて、宮崎に残してきています。そのふたりの子どもたちの面倒を充分に見られないことは母親としてはつらいときもあります。特に一番下の子どもは、歩き始めたり、話し始めたりなど、成長が著しい時期なので、その過程が見られないの

は淋しくもあります。宮崎においてきている子どもたちのことは本当に心配しています。

今回の入院は長引いているため、小学生の娘は不安になっていたようです。冬休みに入りひとりで東京に来て、一緒にハウスで過ごしました。そのときには思いきり甘えさせてあげよう、優しくしてあげようと思い、一緒に遊びにも行ったりしました。病気の子どもを抱えながら、このようなことができたのもこのハウスがあったからです。冬休みが終わり、宮崎に戻るとき、羽田で娘は大泣きし、私と離れるのを嫌がりました。また、しばらく会えないという想いで胸がいっぱいになったのでしょうか。それは子どもだけではなく、親も同じ気持ちです。

マクドナルドのお店にある募金箱のことやハッピーセット代の一部が寄付されていること、さまざまな人たちの善意によってこのハウスが支えられていることも、ハウスを利用してはじめて知り、人の

温かみや親切を身にしみて感じています。

実際、子どもの病気は親にとって本当につらいものです。人には言えないさまざまな苦労や犠牲がともないます。時にくじけそうになってしまう私たちの良き理解者、それが「ハウス」だと思います。

ハウスを利用したいという人たちはまだまだたくさんいます。ひとりでも多くの人が利用できるようにハウスがもっと増えて欲しいと切に願っています。

最後に私たちをいつも励まし、支えてくださっているハウスの関係者の皆さま、そして募金・寄付をしてくださる多くの方々、本当にありがとうございます。

2007年 3月 浅田真由美



INDEX

目次

1	Special Story 私たちを支えてくださっている皆さまへ
4	財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンについて
5	ご挨拶
9	DMHC活動概要
15	ボランティア普及活動
17	助成事業
19	国際交流、国内外研修派遣事業
20	財団活動トピックス2006
29	応援メッセージ
32	役員・評議員・選考委員の紹介
33	決算報告
36	監査報告
37	サポーター紹介



Donald McDonald House Charities Japan

財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンについて

■財団設立の趣旨

現在、難病に苦しむ子どもの数は全国で20万人に及んでいます。言い換えると、難病の子どもを持つ家族はその数倍も存在することになります。これらの家族は、子どもが難病であるが故に自宅と入院先との二重生活による経済的な負担、家族が離れて暮らす不安などによる精神的苦痛を感じています。

多数の個人、団体がこうした家族を支援すべく、難病の子どもとその家族のための宿泊施設を提供し、運営してきました。しかしながら、大都市周辺の宿泊施設の場合、病院から離れているところが多いことやボランティアの支援体制が諸外国のように十分できないことなど、利便性の面でまだ多くの問題を抱えています。そこで、この問題に適切に対処するための社会基盤と人的な教育の整備を図るために財団を設立しました。

私たち「財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン」は、ボランティアへの助成、国際交流などの活動に全力で取り組むとともに、社会全体で支援する仕組みづくりに寄与したいと願っています。



■財団の概要

名 称：財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン
所 在 地：東京都新宿区西新宿6丁目5番1号 新宿アイランドタワー 39階
目 的：本財団は、難病児およびその家族等を支援する福祉、医療分野等におけるボランティアへの助成並びにその家族等に対し必要な施設の設置等の措置を講じ、その有効適切な運営を行うこと等により、もって地域社会における支援体制の確立に寄与することを目的とする。
事 業：①難病児及びその家族等を支援する福祉、医療分野等におけるボランティアへの助成事業
②福祉、医療分野等におけるボランティアの国際交流、国内外研修にかかる助成事業
③前号におけるボランティア活動を振興するための普及啓発事業
④難病児及びその家族等のための滞在施設の設置、運営及び助成
⑤その他前条の目的を達成するために必要と認める事業
設 立：平成11年4月1日
主務官庁：厚生労働省

Message

ご挨拶



財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン
理事長 開原成允

Chairman, Donald McDonald House Charities Japan
Shigekoto Kaihara

財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンが設立され8年が経ちました。日本で最初の「せたがやハウス」が難産の末産み出されてから5年余になり、現在では5つのハウスが設立され、延べ6,500家族に利用していただいています。また、それを支えているのは年間30,000時間を超える活動をしているボランティアの人たちで、ハウスマネージャーなどの数少ないスタッフを支え、「第2の我が家」という雰囲気の中で、看病で疲れたご家族に憩いの場を提供しています。

また、ハウスを整備しそれを運営していくには莫大な費用がかかります。日本マクドナルド株式会社はじめ多くの企業からのご寄付、個人から頂戴する浄財、マクドナルドの店舗内の募金箱に入れてくださる善意。これらすべてのおかげでハウスは成り立っています。

このようにハウスを支えてくださっている皆さまへの感謝の気持ちを込め、また財団の活動を知っていただくため、このたび2006年の年間報告書を作成いたしました。今後とも病気のお子さんとそのご家族のために努力していく所存ですので、かわらぬご支援をいただきますようお願い申し上げます。

It has been 8 years since the foundation of Donald McDonald House Charities Japan and more than 5 years since the first Donald McDonald House in Japan, "Setagaya House", was opened after hard labor. Now the DMHC operates 5 Houses in the country and a total of 6,500 families used the Houses. The Houses have been supported by volunteers who contribute more than 30,000 hours to help a limited number of House staff members including House Managers in creating a comfortable "a home away from home" atmosphere for families who are tired from taking care of children suffering serious illness.

The maintenance and operation of the Houses also involves enormous costs. And the Houses rely for the payment of the costs on donations from McDonald's Japan and many other companies and individuals as well as goodwill funds received in donation boxes placed in McDonald's restaurants.

This 2006 Annual Report was created with sincere gratitude for these companies and individuals supporting the Houses and to raise the public awareness of DMHC's activities. We intend to make uninterrupted efforts to support seriously ill children and their families and will greatly appreciate your continuous support and cooperation.



財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン
専務理事 廣瀬 修

Chief Executive Director, Donald McDonald House Charities Japan
Osamu Hirose

私が財団の専務理事をお引き受けしてから1年が過ぎました。

米国に長期間滞在していましたが、帰国後はボーイスカウト日本連盟や長崎県児童養護施設協議会への支援、さらに社会福祉協議会や文化芸術活動への支援などを通して数多くの子どもの育成活動に関わって参りました。

「病気に苦しむ子どもたちとその家族のための第2の家」を建設・運営している当財団の活動も、まさに私が長年取り組んで参りました将来を担う子どもたちへの支援と合致するものと感じ引き受けた次第です。

ドナルド・マクドナルド・ハウスのすぐれた点は世界的に一つのコンセプトで運営している、ということです。世界中のすべてのハウスが同一の理念を持ち地域の方々の協力のもと、多くのご家族を支えています。日本にもまだまだハウスを必要としているご家族があります。それらの方々に支援するためには多くの資金も必要です。今まで支えていただいた多くの企業や個人の方々に心からの感謝を申し上げますとともに、さらなる広がりを構築していきたいと願っております。

A year has passed since I took over as the Chief Executive Director of our foundation.

I lived in the United States for a long time. After returning to Japan, I am supporting the Boy Scouts Association of Japan, the association of nursing home for children in Nagasaki, and a variety of other social welfare and cultural activities involving child foster care.

I undertook this position because the activities of our foundation for building and operating "a home away from home for ill children and their families" paralleled my own activities supporting children and their futures.

A key attribute of the Donald McDonald House Charities is that they have the same concept for management worldwide. All houses have the same philosophy, wherein the families are supported with help from the local community.

There remain many more families in need of our houses, and funds are necessary to help support these families. As I express my deepest gratitude to all the companies and individuals that have supported us thus far, I also hope we will be able to expand our activities further in the future.



厚生労働省 社会・援護局
局長 中村秀一

Director-General, Social Welfare/War Victims' Relief Bureau Ministry of Health, Labour & Welfare
Shuichi Nakamura

昨年9月の「とちぎハウス」の開所式にご招待いただき、わが国で5番目となるドナルド・マクドナルド・ハウスを見学させていただきました。かねてより、開原理事長からハウスの取り組みをお伺いしており、実際のハウスを拝見することは、私にとっての課題でありましたので、大変良い機会となりました。

自治医科大学とちぎ子ども医療センターのオープンにあわせ、「とちぎハウス」が開所したことは、誠に時宜を得たことと思いますし、桃井センター長はじめ、皆さまが喜んでおられたことが印象的でした。

ハウスの取り組みは、ボランティアの振興や企業の社会貢献という観点からも意義深いものであります。当日の日本マクドナルド社の原田CEOのお話から、このようなハウスを産み出す「企業文化」を感じ、感銘を受けました。

ハウスの活動の益々のご発展をご期待申し上げます。

Last September, I was invited to the opening ceremony of the Tochigi House, which became the fifth Donald McDonald House in Japan. Visiting the house had been a priority of mine since I had begun querying Chairman Kaihara about its existence, so this was a prime opportunity for me.

It was extremely timely that the opening of the Tochigi House coincided with the opening of the Jichi Children's Medical Center Tochigi, and I was very impressed by Momoi's Head-of-Center and the smiling faces of those on hand.

The activities of the house are crucial to promoting the development of volunteer work and corporate contributions to society. The speech by Mr. Harada, CEO of McDonald's Japan, impressed upon me the value of corporate contributions, and I find the Corporation's activities very admirable.

I hope and believe that the presence of these houses will help spread greater corporate contributions and further volunteering throughout Japan.



国立循環器病センター
総長 北村惣一郎

President, National Cardiovascular Center
Soichiro Kitamura

これまでの日本の医療は、治療に関わる事柄についての決定を、患者本人ではなく医師が患者に代わって行う、いわゆるパターンリズムという形で進められてきましたが、この10年間で大きな変革を遂げ、患者さんの側に立った医療のあり方というものが浸透してきました。しかし患者さんがお子さんとなると、お父さんやお母さんの連携が何よりも重要になります。病院と家族との連携なくしては良い治療ができません。

国立循環器病センターは、子ども病院ではありませんが、先天性の心臓病のお子さんが全国からたくさん入院しておられ、大阪府以外の患者さんが約50%にものぼります。お子さんと一緒に過ごす時間を少しでも長く、と病院では面会時間を延長するなどしていますが、遠方のご家族には大変な負担になります。すぐそばに家庭の延長として家族がともに過ごせる場所があれば、治癒期間の短縮さえも期待できます。このようにドナルド・マクドナルド・ハウスはご家族が家庭の延長として暮らせるばかりでなく、治療上も大変大きな意味を持っている施設です。ハウスを有効活用してよい医療を患者さんにお届けするよう努力をして参る所存です。

Until very recently, matters related to medical treatment in Japan have been determined not by patients, but by the doctors treating them. This form of paternalism has been the norm. But over the past ten years, innovative changes have been implemented, and medical treatment in Japan now takes into greater consideration the ideals and needs of the patients themselves.

If the patient is a small child, however, the involvement and cooperation of both the mother and father become crucial. Proper treatment for the child cannot be administered without a cooperative relationship between the parents and the hospital.

The National Cardiovascular Center is not a children's hospital, but many children with congenital heart illnesses are hospitalized here, with over 50 percent of them coming from outside of Osaka Prefecture. The hospital has extended visitation hours so that families can spend more time together, but for those families living far away, just visiting their child becomes a huge burden.

If accommodation facilities for visiting families exist near the hospital grounds, the treatment period for their children may be shortened. The Donald McDonald House not only provide families with 'a home away from home,' they are also critical to the duration and outcome of the patient's medical treatment.

I will continue in my efforts to offer excellent medical care to our patients by utilizing the Donald McDonald House effectively.

House Information

DMHC活動概要



Donald McDonald House Setagaya

ドナルド・マクドナルド・ハウス せたがや

■ハウス情報

住 所：〒157-0074
東京都世田谷区大蔵2-10-10
電 話：03-5494-5534
F A X：03-3749-2267
延べ床面積：1,744.29m²
主 要 構 造：鉄筋コンクリート造り
規 模：地上4階建て、地下1階
ベッドルーム数：18室

■施設概要

2001年12月に誕生した国内第1号の「せたがやハウス」は、国立成育医療センターに隣接して建てられました。小児ベッド数が460床ある国立成育医療センターには、全国各地から患者が入院または通院しています。

■2006年実績

利用家族数：640家族 総宿泊数：5,555泊
平均滞在日数：8.6日
ボランティア登録者数：185名



■収支報告 (単位：円)

収 入		支 出	
宿 泊 料	8,279,000	給 料 手 当	6,310,557
そ の 他	67,427	水道光熱費	5,188,975
財団補助額	12,835,917	租 税 公 課	5,183,900
		そ の 他	4,498,912
合 計	21,182,344	合 計	21,182,344

■ハウスマネージャーのコメント

お子さんが病気で困難な状況の中、不安な気持ちでハウスに来られたご家族に「ここに来て良かった。きっと子どもも元気になれる！」このような気持ちになってもらえるようなハウスづくりを目指しています。

紀平訓江





Donald McDonald House Sendai

ドナルド・マクドナルド・ハウス せんだい



■ハウス情報

住 所：〒989-3126
宮城県仙台市青葉区落合4-5-3
電 話：022-391-1233
F A X：022-392-5535
延べ床面積：1,679.36m²
主 要 構 造：鉄筋コンクリート造り
規 模：共有棟(平屋建て)、宿泊棟(2階建て)
ベッドルーム数：16室

■施設概要

2003年11月に誕生した国内第2号目の「せんだいハウス」は宮城県立こども病院のそばに建てられました。こども病院は160床あり、ハウスは主に東北地方からの患者家族が利用しています。

■2006年実績

利用家族数：706家族 総宿泊数：2,809泊
平均滞在日数：3.9日
ボランティア登録者数：167名



■ハウスマネージャーのコメント

ハウスは多くの皆さんの「やさしい」心で運営されています。ボランティアさんはもちろん、利用されるご家族の「やさしい」心もいっぱいです。ご自身も疲れているのにほかのご家族を励ましたり、時にはハウスの草取りやアイロンがけを手伝ったりすることもあります。そんな「あったかい」ハウスをこれからも大事に運営していきたいと思っています。

中島康志



■収支報告 (単位：円)

収 入		支 出	
宿 泊 料	4,712,800	給 料 手 当	6,554,821
そ の 他	241,171	水道光熱費	5,218,257
財団補助額	14,048,621	租 税 公 課	2,428,400
		そ の 他	4,801,114
合 計	19,002,592	合 計	19,002,592



Donald McDonald House Kochi

ドナルド・マクドナルド・ハウス こうち



■ハウス情報

住 所：〒781-0111
高知県高知市池953-10
電 話：088-837-3650
F A X：088-837-3652
延べ床面積：1,180.72m²
主 要 構 造：RC造り
規 模：平屋建て
ベッドルーム数：16室

■施設概要

2005年2月に誕生した国内第3号目の「こうちハウス」は同時期に開院した高知医療センターのそばに建てられました。高知医療センター内には母子医療センターがあり、ハウスには重症妊産婦の家族や小児の患者家族が宿泊しています。

■2006年実績

利用家族数：414家族 総宿泊数：1,255泊
平均滞在日数：3.0日
ボランティア登録者数：284名



■ハウスマネージャーのコメント

1日も早く患者さんとご家族に笑顔が戻ることを願っています。そのためには、患者さんのそばに付き添うご家族が心身ともに健康であること。ハウスが、病気に立ち向かうパワーの源でありたいと思っています。

近藤二夫



■収支報告 (単位：円)

収 入		支 出	
宿 泊 料	1,739,000	給 料 手 当	6,077,516
そ の 他	115,530	水道光熱費	2,711,933
財団補助額	11,394,398	租 税 公 課	127,800
		そ の 他	4,331,679
合 計	13,248,928	合 計	13,248,928



Donald McDonald House Osaka-Suita

ドナルド・マクドナルド・ハウス おおさか・すいた



■ハウス情報

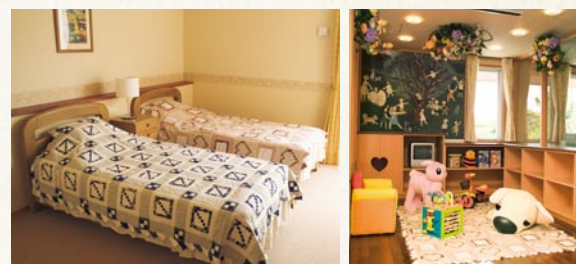
住 所：〒565-0875
大阪府吹田市青山台4-31-20
電 話：06-6836-6551
F A X：06-6831-7611
延べ床面積：1,292.88m²
主 要 構 造：鉄筋コンクリート造り
規 模：共有棟(平屋建て)、宿泊棟(2階建て)
ベッドルーム数：18室

■施設概要

2005年10月に誕生しました国内第4号目の「おおさか・すいたハウス」は、国立循環器病センターの向かい側に建てられました。国立循環器病センターは小児病院ではありませんが、全国から心臓病の患者が入院または通院にきています。入院患者の家族が宿泊場所がなく困っていたことから病院、および自治体からハウス建設の依頼を受け、ハウス開設が実現しました。

■2006年実績

利用家族数：398家族 総宿泊数：3,769泊
平均滞在日数：9.4日
ボランティア登録者数：388名



■ハウスマネージャーのコメント

おおさか・すいたハウスは、患者本人と家族の方に癒しの場として気持ちよく寛げて、安心して過ごせるハウスを目指しています。

山中智子



■収支報告 (単位：円)

収 入		支 出	
宿 泊 料	5,496,000	給 料 手 当	6,848,523
そ の 他	888,767	水道光熱費	4,119,575
財 団 補 助 額	15,634,423	租 税 公 課	10,518,110
吹田市補助金	3,982,580	そ の 他	4,515,562
合 計	26,001,770	合 計	26,001,770



Donald McDonald House Tochigi

ドナルド・マクドナルド・ハウス とちぎ



■ハウス情報

住 所：〒329-0434
栃木県下野市祇園2-36-3
自治医大2号館3階
電 話：0285-58-7551
F A X：0285-44-4154
延べ床面積：652.9m²
主 要 構 造：鉄筋コンクリート造り
ベッドルーム数：7室

■施設概要

2006年9月に誕生しました国内第5号目の「とちぎハウス」は自治医大とちぎ子ども医療センターの向かい側に開設されました。とちぎハウスは、自治医科大学の建物を一部無償で借りし、県の補助金を使って大学側に内装整備していただいた、ニューモデルのハウスです。

■2006年実績

利用家族数：43家族 総宿泊数：220泊
平均滞在日数：5.1日
ボランティア登録者数：186名



■ハウスマネージャーのコメント

利用家族に一番必要なものは何でしょうか？あたたかいベッドや食事？言葉かけ？もちろんそれらも必要だと思いますが、まずはそのような家族の状況を理解して、寄り添う心を持つことだと思っています。普段からボランティアの方やスタッフも、お互い思いやりを持ちつづご家族をお迎えできるハウスにしていきたいです。

斎藤麻矢



■収支報告 (単位：円)

収 入		支 出	
宿 泊 料	312,000	給 料 手 当	3,363,189
そ の 他	39,469	水道光熱費	299,199
運営費負担金	2,000,000	租 税 公 課	0
財 団 補 助 額	6,764,590	そ の 他	5,453,671
合 計	9,116,059	合 計	9,116,059

ボランティア説明会

2006年9月のとちぎハウスオープンに向け、大々的なボランティア募集を行いました。広報誌にボランティア説明会開催の記事を掲載し、ボランティア活動の意義や活動内容を説明して、ハウスのボランティア登録を行っていただきました。ハウスオープン直前には、ボランティアの交流を深め、一致団結して今後の運営をサポートしていけるよう決起集会を行いました。ハウスのボランティア活動は陰ながらご家族をサポートする活動ですが、



現在186名の方が登録されており、事務ワークや清掃作業など日々の活動に参加してくださっています。

アロマハンドマッサージ

入院中のお子さまに付き添っていらっしゃる家族の方への「アロマハンドマッサージ」をハウスで行っています。植物の香りとタッチング（触れる）によって得られるリラックス感と心地よさを実感していただき、心身のお疲れを緩和する手助けとなれば…と思っています。

施術前に簡単なカウンセリングを行う中で、皆さんのお話を聞いていると、いつもポジティブで強い精神力が感じられ、逆にボランティアの私が元気をいただいています。



石本美恵野

Volunteer activity ボランティア普及活動

ハウスの広報活動

高知県はボランティア活動の意識が低い地域です。で、日頃からマスコミなどに、ハウスの説明をする広報活動の中でがんばっています。特に県下の病院訪問やボランティア体験講座、ハウスツアーに参加される方々に活動内容やボランティア活動の喜びを伝え、参加を呼びかけています。また、高知工科大生のインターンシップ受け入れや、隣接地の高知女子大生、高校生など地域の若い方たちにも体験を通じて活動の輪を広げています。



田中美智子

「草取り隊」結成！



せんだいハウスの周りは樹木が多く自然がいっぱい。ただし敷地が広い雑草も育ちやすいので毎年、草取りが大変でした。そこでボランティア意見交換会から出た案で「草取り隊」を結成することになったのです。募集については地元新聞にも掲載されたおかげで29名の方が集まりました。ご夫婦、親子、友人同士などさまざまな方が参加され、特に多かったのは大和ハウスの企業ボランティアの皆さんでした。草取り活動は和気藹々と楽しくお話ししながらも、あっという間に草がなくなり予定の時間が余るほどでした。「また来ます」「いい汗かきました」「次回はもっと仲間を連れてきます」など嬉しい言葉を皆さんからいただき感謝の気持ちでいっぱいになりました。

これからも「草取り隊」としてハウスをサポートしてくれる頼もしい存在になると思います。

ボランティアに参加して

ボランティアは単に活動するだけでなく、いろんなことが力になります。ハウスには主婦や学生など、いろんな年齢層の方がいらっちゃって、また医師など医療従事者がハウスに来て話すチャンスもあるので、自分にとってはいい情報交換の場となっています。ボランティアを行うことによって福祉の知識や技術だけでなく、人間としての経験値やスキルがあがると感じています。



河原 創

Grants program

助成事業

今年度の助成事業として、難病・重病の子どもとその家族のために宿泊施設を運営している非営利のボランティア団体の中から、厳正な選考のうえ、8つの団体に助成させていただきました。共通の思いを抱いて活動する団体として、ともに発展を推進していけたらと思います。

たんぽぽハウス

熊本大学附属病院の小児外科病棟のための1号館(ワンルーム)、小児病棟のための2号館(2LDK、駐車場1)、熊本市市民病院の小児病棟のための3号館(2LDK、駐車場2)を運営しています。小児の心臓手術の際は、父母そろって病院から30分以内の所に待機する必要があるため、3号館は、熊本県内のみならず、鹿児島県遠くは種子島の方も利用されています。知らない土地や病院で不安を感じられている利用者の方が、休まれて元気になるのがうれしいです。



3号館リビング

とちぎ骨髄バンクを広める会「サポートハウス小山」

2007年1月現在、骨髄バンクにはドナーを待って3,373人の患者さんが登録しています。私たちは一人でも多くの患者さんにドナーが見つかるように、県内各地の健康まつりやイベント会場で骨髄バンクのPR活動を行っています。また、骨髄バンクより説明員の委嘱を受け、献血車で骨髄バンクの登録支援活動を行っています。そして、遠方より県内の大学病院に治療に来ている患者家族のためのサポートハウスの運営を行っています。



医療系の学生を研修生として受け入れています

にいがたファミリーハウスやすらぎ支援の会

「やすらぎ」は、民間のアパート3室に家財道具、寝具などを備え、新潟市の新潟大学病院、県立がんセンター病院などで入院治療する小児をはじめ、難病患者・家族に宿泊りしていただいています。開設から5年半で約250家族に利用され、闘病を支えています。

ドナルド・マクドナルド・ハウス財団の助成金や各方面からの寄付を受けてボランティアで運営し、利用者への心のサポートも行い、わが家のように安らげる施設を目指しています。

新施設開設のためのチャリティーコンサート



よこはまファミリーハウス

2004年3月設立、患者・家族滞在施設を横浜市内に4施設6部屋を管理運営しています。

神奈川県立こども医療センター近隣の「せりがやハウス」の年間利用状況は、常に提供不足気味となっています。神奈川県はこのような状況を憂慮して、こども医療センターより徒歩5分の



施設外観

施設用地を、病院に関わるボランティア団体に無償提供しました。ボランティア団体が建設資金を募り、神奈川県と協力して8室の施設を2008年4月に開設するための活動に当会も参加しています。

北海道ファミリーハウス

小児がんなど難病治療の患者さんは、高度医療(骨髄移植や手術・放射線治療など)を受けるため長期間の入院が必要となります。

一方、その家族は付き添いのため、知らない土地でビジネスホテルやアパートを確保するなど重い経済的・精神的負担を抱えることとなります。このような状況を改善する一方策としてファミリーハウスの運動が進められています。

私たちは、オーナーやホテルの協力をいただき、滞在支援施設の提供やファミリーハウス運動への理解活動推進に取り組んでいます。

ファミリールーム・からんこえ

2004年4月に京都ではじめての民間での患者家族宿泊施設「ファミリールーム・からんこえ」をオープンしました。近くには高度先進医療機関の京都大学附属病院、京都府立医科大学附属病院などがあります。オーナーの子どもさんの病気がきっかけとなり、同じように病気の子どもを持つ親と、その仲間が集まって活動しています。

「からんこえ」は難病と闘う子どもたちを支える家族の方々の肉体的、経済的負担を少しでも軽くし、子どもたちの入院生活を支えていただきたいという思いから、提供している施設です。スタッフ一同「心の安らげる部屋」を目指して掃除や入退室のお手伝いをさせていただいています。

ファミリーハウス岡山運営委員会

私たち、「ばんびはうす」は、岡山大学病院の患者在宅支援センターと小田教授、ボランティア3人で活動しています。内容は、会長・会計・スタッフで成り立っています。

活動は、「ばんびはうす」の清掃、洗濯、室内の安全点検、衛生管理、そして利用者の方が安心して宿泊できるように、24時間いつでも連絡を受けられるシステムにして、何か問題があればいつでも「ばんびはうす」に行くようにしています。私たち3人が連携して、利用者の方のために皆で力を合わせています。おかげさまで、利用者の方には喜んでいただいています。

特定非営利活動法人ラ・ファミリエ

難病や障害を持つ子どもと家族を支援する活動を行っています。

①愛媛県の指定管理者としてファミリーハウスあい(慢性疾患児家族滞在施設)の運営

②難病や障害を持つ子どもと家族のためのお泊まり会、キャンプの開催

③難病児、障害児支援のための研修会および講演会の開催

④小児慢性疾患児支援相談事業(愛媛県委託)

⑤小児在宅支援ネットワーク事業(愛媛県との協働事業)

そのほかにもボランティア研修会、チャリティーコンサートの開催などを行っています。

在宅支援研修会の様子



施設外観



International exchange program

国際交流、国内外研修派遣事業

講演会の実施

福祉・医療の分野における日本のボランティア活動の普及のため、2006年度は「外国の難病・重病の子どもを有する家族を支援する宿泊施設のボランティア活動に関連を持つ、海外在住の外国人個人の招聘を希望する団体」を募集しました。厳正なる選考の結果、「せたがやハウスを支える会」が採択され、講演会を実施しました。

講演会の内容

■誕生

最初のハウスは1974年米国フィラデルフィアに誕生しました。それは、オードリー・E・エヴァンス、フレッド・ヒル、ジム・マリーそしてジョン・カヌーソの4人がいたから実現しました。まず1人目は、オードリー・E・エヴァンス。彼女は病院で病氣と闘っている子どもたちの家族が、病院のそばでゆっくり休める場所を提供できないものか、と日頃から感じていました。2人目はフレッド・ヒル。彼はフィラデルフィア・イーグルスのフットボール選手で、ちょうどそのとき愛娘が白血病で苦しんでいました。3人目がジム・マリー。当時イーグルスのマネージャーをしており、マクドナルドのオーナーオペレーターに募金の協力をお願いした人です。そして4人目はジョン・カヌーソ。彼の愛娘も実は白血病と闘っていました。大工の彼は建物を改装し、美しい「第2の我が家」を誕生させました。この4人の出会いとお互いの理解と協力があってこそ1号ハウスは誕生したのです。

■成長

2つ目のハウスはチャールス・マリノによって誕生しました。彼の愛娘もまた白血病でした。シカゴ・ベアーズ、そしてマクドナルド社の協力により1977年シカゴに誕生しました。またマクドナルド社のチェアマンのレイ・A・クロックが亡くなったとき、マクドナルド全店舗が1,000ドルずつの寄付を行い、各地にドナルド・マクドナルド・ハウス財団が誕生しました。それから現在に至るまで世界中にこの活動が広がっていったのです。

【講演会概要】

日 時：12月1日(金) 15:00～16:30

場 所：国立成育医療センター 講堂

演 者：オードリー・E・エヴァンス氏
(フィラデルフィア小児病院 小児科医)

テーマ：「ドナルド・マクドナルド・ハウス」は
こうして始まった

■そして現在

世界には260以上のハウスがあります。このハウスの事業に関わっている人は皆、ドナルド・マクドナルド・ハウスは単なる家ではなく、「A Home Away From Home～我が家のようにくつろげる第2の家～」であると感じています。ハウスは安心して過ごせる、あるいは、心地よい空間だけを提供している場所ではありません。なぜならハウスには同じ境遇のお母さんたちがたくさんいます。いつでも困ったときに助けてくれるボランティアの人たちや、病気の子どものために食事を作ってあげられるキッチンがあります。あたたかな日差しを浴びながらのんびりできる庭があります。

最近では「ファミリールーム」といって、病棟の中に家族が休める空間をつくり、そこで家族は泣いたり、笑ったり、くつろいだりしながら、ひととき看病からはなれることができます。

32年前に誕生したフィラデルフィアハウスはドナルド・マクドナルド・ハウスの母となっていることに喜びを感じ、世界中で孫のように増えたハウスたちが育っているのを誇りのように感じています。

オードリー・E・エヴァンス氏



Topics 2006

財団活動トピックス2006

「ドナルド・マクドナルド・ハウス とちぎ」オープン

2006年9月21日、栃木県下野市に国内第5号となる「とちぎハウス」の開所式が執り行われました。

とちぎハウスは、栃木県および自治医科大学の多大なる熱意とご支援を受け、誕生したハウスです。開所式には、ハウスオープンを心待ちにされていた多くの県そして大学関係者にお集まりいただきました。

開原成允財団理事長より「ハウスは一般市民であるボランティアによって運営され、そのハウスが医療を支えている。社会が医療を支えるというハウスの誕生を誇りに思う」との挨拶があり、その後ご出席いただきました福田富一栃木県知事、吉田弘正自治医科大学理事長ならびに高久史磨学長、中村秀一厚生労働省社会・援護局長などよりオープンに向けてのお祝いのお言葉をいただきました。

開所式の最後にはとちぎハウスのロゴのお披露目を行いました。上記の方々ほか、島田和幸自治医科大学附属病院長、桃井真里子自治医科大学とちぎ子ども医療センター長、原田泳幸日本マクド

最後のブロックを積み「とちぎハウス」のロゴマークを完成させる有村治子財団理事（参議院議員）



ナルド（株）CEO、有村治子財団理事、そしてドナルドにお手伝いいただきハウスのロゴをかたどったブロックを1つずつ積み上げ、とちぎハウスのロゴマークを完成させました。このロゴマークには「栃木生まれのいちご『とちおとめ』のように大事に育てられた粒揃いの子どもに育てて欲しい」との願いが込められています。

開所式当日は、ハウス同様に多くのボランティアの方にお手伝いいただき、手作り感のある温かいセレモニーを執り行うことができました。ご協力いただきました皆さま、ありがとうございました。

当日は多くのボランティアの方にお手伝いいただきました



募金にご協力いただき
ありがとうございます。

現在、全国のマクドナルド店舗さらには一般企業の店頭、受付や従業員の休憩場所に募金箱を設置していただいています。店頭を訪れた多くのお客さま、さらには従業員の皆さまのご協力により2006年の1年間で68,110,532円もの募金が集まりました。これらの募金はすべて病気の子どもとその家族のためのドナルド・マクドナルド・ハウスの運営費に充てられています。



BABW本田氏(左)よりせたがやハウス紀平マネージャーへ「ドネーション・ベア」を贈呈

想いが込められた
「ドネーション・ベア」の寄付

世界16カ国にある「ビルド・ア・ベアワークショップ(以下・BABW)」から各国のハウスに滞在している家族と子どもたちに「ドネーション・ベア」が55,000体贈られました。そのうち700体がせたがや、せんだい、こうち、おおさか・すいたの各ハウスに寄贈されました。

BABWとは、約36種類ある動物のキャラクター

の中からお気に入りを選んで、自分だけのぬいぐるみが作れる体験型ストアです。1997年米国セントルイスにオープン以来、子どもたちはもちろん大人たちにも人気を呼び、全米247店舗、世界16カ国で90店舗以上に成長しています。

日本では2006年5月20日、21日の2日間でイベントを行い、全国のBABWで700人ものお客さまがハウスに贈られるドネーション・ベア作りを手伝ってくれました。ぬいぐるみに綿を詰め終わると、最後にハート型のチップに「早く元気になってね!」と想いを込め、ベアに命が吹き込まれました。

想いが込められたドネーション・ベアは各ハウスに滞在している家族を通じて病気と闘っている子どもたちへ贈られました。

突然のプレゼントに子どもたちは喜んでいました



セーラ妃のせたがやハウス訪問

全世界のマクドナルドでは、国連が定める11月20日の「世界子どもの日」に向け、世界100カ国以上の国々で子どもたちの健全な育成をサポートするためのチャリティー活動を実施しています。2005年から引き続き、マクドナルド「世界子どもの日」チャリティーキャンペーンの世界親善大使を務めるセーラ・ファーガソン ヨーク公爵夫人は、各国の病院やハウスを訪問しながらチャリティー活動への参加の呼びかけをしてくださっています。そして11月7日、日本第一号であるせたがやハウスおよび隣接する国立成育医療センターを訪問されました。



せたがやハウスでは多くのボランティアの方がお出迎えをし、セーラ妃も興味深くハウス内をご覧になっていました。滞在されているご家族にも話しかけ、ご自身で書かれた絵本を小さな子どもに読んでくださいました。



滞在しているご家族に気さくに声をかけてくださるセーラ妃

マクドナルドの本社内および店舗のクルーーム(従業員休憩室)には、コカ・コーラ社の自動販売機が設置されています。2005年よりこの自動販売機のドリンクお買い上げ1本につき1

コカ・コーラボトラー社のご支援

円がボトラー社12社の協力により、ドナルド・マクドナルド・ハウス財団へ寄付されています。2006年の一年間で総額3,420,546円の寄付をいただきました。



東京コカ・コーラボトリング(株) 高橋俊夫専務執行役員

協力いただいているボトラー社
コカ・コーラウエストジャパン株式会社
四国コカ・コーラボトリング株式会社
東京コカ・コーラボトリング株式会社
利根コカ・コーラボトリング株式会社
三笠コカ・コーラボトリング株式会社
コカ・コーラセントラルジャパン株式会社
みちのくコカ・コーラボトリング株式会社
仙台コカ・コーラボトリング株式会社
近畿コカ・コーラボトリング株式会社
南九州コカ・コーラボトリング株式会社
北陸コカ・コーラボトリング株式会社
三国コカ・コーラボトリング株式会社





ハウスの庭に「もみじ」を植樹する井口選手とダイ選手

米国国内では、スポーツ選手のチャリティー活動が積極的に行われていますが、ここ日本でも彼らは活動をしています。

11月に開催された「イオン日米野球2006」に出場するために大阪を訪問していた大リーグ選抜の井口資仁選手、そしてジャーメイン・ダイ選手(ともにシカゴ・ホワイトソックス)が「おおさか・すいたハウス」を訪問し、ボランティア活動に参加してくださいました。

ハウスの中を見学しながら、ベッドメイキング、クッキー作りなどのボランティア活動を通じて付き添いのご家族やボランティアの方と和やかなひとときを過ごしました。

最後には、野球のバットとして使われる樹である「もみじ」を訪問の記念に植樹していただきました。



MLBより寄贈していただきましたロゴ入りの車

メジャーリーガーのチャリティー活動



患者さんとそのご家族と交流を図る井口選手

た。さらにMLB (メジャーリーグベースボール) よりご家族の送り迎えや宣伝カーとして使用できる財団ロゴ入りの車をご寄付いただきました。

今回の訪問はMLB側が、メジャーリーガーたちの来日期間中に、チャリティー活動を行いたいとの希望から実現したものです。米国ではボランティアや募金活動が当たり前のように行われていますが、日本でもこうした活動の習慣が広まって欲しいとの願いが込められています。

高円宮妃殿下、おおさか・すいたハウスへ御成り

11月16日(木)、日本赤十字社名誉副総裁として大阪を訪問されていた高円宮妃殿下が「おおさか・すいたハウス」を訪問してくださいました。



手芸をしていたボランティアグループとの記念撮影

妃殿下はハウスの活動にとっても関心を持ってくださっており、今回はせんだいハウス、こうちハウスに続き3つ目のハウス訪問となります。当日は、国立循環器病センター北村総長、阪口吹田市長、開原財団理事長がお出迎えをし、その後ハウス内をご覧いただきました。

手作りのものであたたかい雰囲気になるようにパッチワークの作品づくりに参加されていたボランティアや滞在されているご家族に、妃殿下はやさしく励ましの言葉をかけてくださり、皆さん大感激の様子でした。

チャリティーゴルフを開催

12月11日、神奈川県程ヶ谷カントリー倶楽部にて「Donald McDonald House チャリティゴルフ」が開催されました。1999年から、スポーツを通じて病気の子とその家族をサポートしようという趣旨のもと始まったチャリティゴルフも、今年で8回目を迎えました。

ハウスの趣旨にご賛同いただいた深堀圭一郎プロ、田中秀道プロ、横田真一プロを中心に31名のプロゴルファーと、日頃よりハウスを支援していただいている企業、アーティスト、医療関係者など92名の方にご参加いただきました。

今大会は日本コカ・コーラ(株)、日本マクドナ

ルド(株)をはじめ多くの企業からのご寄付やチャリティーオークションにより913万円ものご寄付が集まりました。

毎年参加していただいているプロゴルファーそして参加者の方々が増えていく様子から、チャリティーの輪が確実に広がっていることが実感できる一日でした。

皆さまにお礼をのべる
廣瀬財団専務理事

今回ご参加くださった31名の
男、女プロゴルファーの皆さま



FM802がサポート！ アコースティックライブ実施

関西で若者をはじめ、幅広い層のリスナーから支持を得ているFM802のご協力で、アコースティックライブそしてアートの展示が11月18日に「おおさか・すいたハウス」にて行われました。ハウスのエントランスには、FM802が実施しているアートプロジェクト『digmeout (ディグミーアウト)』アーティストによる作品が展示され、いつもと少し雰囲気の違うハウスが演出されました。

夕方からはチャンキー松本さんによる影絵、アーティストのトウヤマタケオさんそしてnaomi & goroさんによるアコースティックラ



上：ピアノ独奏でしっとりとした歌を聴かせてくれたトウヤマタケオさん
下：透き通るような美しい歌声を披露してくれたnaomi & goroさん

イブでハウス内にはゆったりとした音楽が流れ、ご家族とボランティアの方はホッとした癒しの空間を楽しみました。

ハウスは「我が家のようにくつろぐ第2の家」ということで一般のリスナーの方は招待できずに行ったライブとなりましたが、この活動を多くの方に知っていただけるように、後日WEBおよびFM802の番組内で紹介されました。

チャリティーパーティーを開催

11月6日、日頃よりハウスをサポートいただいている方々300名をご招待し、チャリティーパーティーを開催しました。企業の方はもちろん、サポート団体や医療関係者、行政など各界の方に参加していただき、開原財団理事長から、日頃からのご支援に対する感謝の意を述べさせていただきました。マクドナルド「世界子どもの日」チャリティーキャンペーンの世界親善大使を務めるセーラ・ファーガソン ヨーク公爵夫人も特別ゲストとして出席され、世界のハウスやチャリティー活動の様子などお話しいただきました。

また、チャリティーオークションも行い、アーティストの石井竜也さん、大黒摩季さんや伊東たけしさん、プロゴルファー



「Stand up for love」を全員で熱唱し、感動的なフィナーレを迎えました

オークションにご協力いただくなど、この活動を深く理解している心強いサポーターの一人です。毎年心に響く音楽でリーダーシップをとって参加してくれています。

11月7日、ドナルド・マクドナルド・ハウスの運営を支援する募金活動の一環として、チャリティーの趣旨に賛同された石井竜也さん、大黒摩季さん、伊東たけしさん (T-SQUARE)、向谷実さん (CASIOPEA)、谷村有美さんら実力派のアーティストによるチャリティーコンサートが実施されました。

今回で3度目の参加となる石井竜也さんは、コンサートへの出演だけでなく、ハウスを訪問してボランティアとの懇親を行ったり、チャリティー

コンサート当日はアーティストの皆さんの曲を楽しむだけでなく、ハウスで病気と闘っている家族の様子が紹介され、チャリティーとは何か、自分たちにできることは何なんだろうかと考えさせられる場面もありました。出演者のチャリティーに対する熱い思いが伝わり、来場された1,200名のお客さまも感激していました。またこの模様は11月20日「世界子どもの日」にBS日テレ他にて放送されました。

会場では出演者そして来場された皆様に、「ハッピーハンド」に病気の子とその家族へのメッセージを書いていただき、病気と闘っている子どもたちに勇気と励ましを贈りました。

笑顔になろう。笑顔にしよう。 チャリティーコンサート開催

番組名：世界子どもの日スペシャル チャリティーコンサート
出演者：石井竜也、大黒摩季、伊東たけし、向谷実、谷村有美、赤坂泰彦、篠原ともえ他
放送局：BS日テレ 11月19日、20日 宮城テレビ 11月25日
RKC高知放送 11月23日



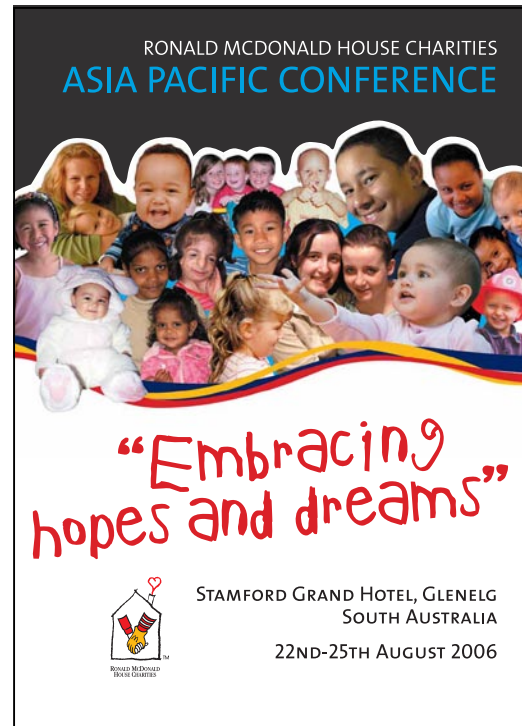
ハッピーハンドに「早く元気になあれ」と願いを込めて

の深堀圭一郎プロ、舛添要一参議院議員などの協力で出品していただいた商品が高値で落札されました。

多くの方のご協力でオークションを含め2,230,590円の寄付が集まりました。ありがとうございました。

本格的に行われたチャリティーオークションに多数の方が参加されました





「RMHC Asia Pacific Conference」開催

それぞれの部門別
で表彰された財団
&ハウス関係者



2年に1度、アジアパシフィックにあるハウス、そして財団関係者が集まりコンベンションが開催されます。2006年はコンベンション開催の年で、8月22日～25日の日程でオーストラリア・アデレードにて行われました。今年はオーストラリア、ニュージーランド、香港、マレーシア、韓国、日本からスタッフが、そしてオーストラリア国内で活動しているボランティア合わせて250名が参加しました。

ゼネラルセッションでは、各国のハウス成長の様子や成功したイベントなどの報告が行われ、その後は分科会に分かれて、ハウスの運営や広報活動、募金集めについての事例発表やディスカッションが行われました。また、ゲストスピーカーを招き、病気の子どもを持つ家族の心情や接し方などを学ぶ場もありました。

夜にはパーティーが行われ、各国のハウスで行われているプログラムを部門別に表彰したり、継続的に活動されているボランティアに敬意を表すアワードが贈られました。

国や地域によってハウスに滞在する家族も異なりボランティアの活動内容に違いはありますが、家族の思いやボランティアの志は同じです。日本もグローバルの一員として今後もハウス運営に全力を尽くします。

委員会の立ち上げ

認知度を向上させ、多くの方に広くご支援をいただくにはどのように活動すべきかを検討する「財務委員会」「広報委員会」の2つの委員会が設立されました。この委員会には財団役員や評議員の方に参加していただき、右記の事項を検討します。

財務委員会

- ① 財団の収入・支出についての内容の精査と確認をおこなう
- ② 寄付集めについての方針を議論しまとめる
- ③ 新規ハウスの建設に関して方針を取りまとめる
- ④ 財団の財産全般についての方針を理事会に答申する

広報委員会

- ① 財団の広報活動について、実施内容の確認をおこなう
- ② 広報に関する方向性を議論し実施内容をまとめる
- ③ 財団の広報活動全般についての方針を理事会に答申する



「私にできる社会貢献」授業

毎月、マクドナルドの店長を対象にハウスについてもっと知っていただくための授業を行っています。マクドナルド社が支援しているハウスがどのようなところなのか、なぜハウスが必要なのか、ハウス内で家族がどのように過ごしているのか、そしてボランティアがどのようにハウスを支援しているかなど、実際にハウスを訪問してボランティア活動を行いながら、学んでいただいています。

これまでに写真や映像でハウスを見たことはあっても、はじめて訪問するという店長が多く、実際にハウスを見ると印象が変わるようです。授業終了後には自分がどのようにハウスに関わることができるかが明確になり、店舗に設置してある募金箱の数を増やす、ボランティアとして参加する、ハウスで必要な消耗品を集めて送る、店舗の従業員にハウスのことを話して広報活動をするなど、さまざまな形でサポートいただいています。



日本マクドナルド株式会社のご支援

マクドナルド社は、社会貢献活動の方針として4つのテーマを設定し取り組んでいます。その一つにドナルド・マクドナルド・ハウスを支援する「チャリティ」があります。具体的な活動として毎年11月に「世界子どもの日」を通じてチャリティキャンペーンを実施し、さらにマクドナルド店舗で販売されたハッピーセット1つにつき1円



がドナルド・マクドナルド・ハウス財団に年間を通じて寄付されています。

Message from Supporters

応援メッセージ



セーラ ファーガソン ヨーク公爵夫人

Sarah Ferguson, Duchess of York

I have had the honor of meeting sweet, brave children from all over the world. I made some of them smile and I have been given more than a few smiles myself. We can all help make these smiles possible by donating to RMHC. Put your spare change in the RMHC canister at McDonald's and let's make them smile.

私は、世界中の勇気に溢れた、かわいい子どもたちに会えることを誇りに思っています。私が子どもたちを微笑ませようとすると、彼らは微笑みだけではなくもっと多くのものを私に与えてくれます。私たちはドナルド・マクドナルド・ハウスに寄付するだけで子どもたちを笑顔にするお手伝いができるのです。皆さまの温かい気持ちをマクドナルドのお店にある募金箱に入れてください。もっと多くの子どもたちの笑顔に出逢えるはずです。



Sarah
Duchess of York



聖路加国際病院 小児科部長
細谷亮太

病気で入院している子どもたちが淋しくないように、そして、少しでも楽しんでもらおうと、私たちの病院ではいろいろな取り組みをしています。プレールームに絵本や玩具を置いたり、保育士と一緒に遊んだり、また定期的に訪問してくれる犬と遊んでもらったりしています。でも、子どもたちが一番うれしいのは、やさしいお母さんがそばにいてくれることです。お母さんたちがいつもやさしくいられるように支援しているドナルド・マクドナルド・ハウスは、医療機関にとってもありがたい存在です。これからも難病のお子さんとそのご家族を支えてください。

細谷亮太



アーティスト
石井竜也

私、石井竜也は、皆さまの素晴らしいご活躍にいつも感動を持って参加させていただいております。マクドナルドのこういった活動は、もっともっと日本に受け入れられるべきだと思います。チャリティーという行為がどこか“偽善的”であるとか“売名行為”であるとかいった、この国にあるイメージをぜひこの運動で消し去っていただきたい。マクドナルドという世界的シェアを持つ大企業だけができ得る人間的な奇跡ではないかと信じます。

未来はそのまま子どもたちです。そしてその子どもたちを愛を持って育てている親たちです。そこで起こり得る、ちょっとした出来事に手を貸せない程、世の中は乾ききってはいないと思います。人間はまだまだ、優しさを失ってはいないと思いたい。このチャリティーを通して、私個人も随分と大人にさせていただきました。どうか、こういった活動を広げていってください。そして、一人でも多くの子どものために手を伸ばしてあげてください。たった一人じゃできないことも、多くの共感を呼ぶことで現実化できるものだと思います。この活動を私、石井竜也はできる限りの力で応援していきたいと思います。

Shinya Ishii



プロゴルファー
深堀圭一郎

1999年に始まった「ドナルド マクドナルド ハウス チャリティーゴルフ」も2006年度で8回目の大会となりました。私は、第一回から参加し、チャリティーの意義を感じながら、たくさんの仲間のゴルファーにも声をかけてきました。ゴルフ界でもハウス支援の輪は確実に広がっています。今年は選手会長にもなったので、ゴルフ界を盛り上げながら、積極的にチャリティー活動にも取り組んでいきます。皆さんも応援よろしく願いいたします。

深堀圭一郎

Board of Directors, Councilors and Selection members

役員・評議員・選考委員の紹介



理 事 長	開原 成允	国際医療福祉大学 大学院医療福祉学研究科 大学院長
専務理事	廣瀬 修	日本ソーディアック株式会社 代表取締役社長
常務理事	島田 浩三	常勤
理 事	矢内 廣 大野 晃 村上 陽一郎 有村 治子 舟橋 正輝 鵜橋 誠一 魚谷 雅彦 寺田 耕治 好本 一郎	ぴあ株式会社 代表取締役社長 森永乳業株式会社 代表取締役会長 国際基督教大学 人文科教授 参議院議員 フジパングループ本社株式会社 代表取締役会長 スターゼン株式会社 代表取締役社長 日本コカ・コーラ株式会社 代表取締役会長 AIU保険会社 日本における代表者 日本マクドナルド株式会社 上席執行役員 コーポレート・アドミニストレーション
監 事	二村 隆章 吉野 賢治	公認会計士 公認会計士
評 議 員	西村 由美子 残間 里江子 矢島 尚 ジェフリー・マクニール 宮田 佳代子 後藤 亘 岩崎 優 下平 篤雄 柳澤 正義 大熊 由紀子 南 砂 佐多 保彦	株式会社e コンセルボ 取締役COO プロデューサー 社会福祉法人世田谷ボランティア協会 副理事長 Market Makers Inc. 代表取締役社長 テレビキャスター 株式会社エフエム東京 代表取締役会長 日本マクドナルド株式会社 コーポレートリレーション本部 CSR部長 日本マクドナルド株式会社 取締役 上席執行役員 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 日本子ども家庭総合研究所 所長 国際医療福祉大学大学院 教授 読売新聞東京本社 編集局 解説部次長 東機貿グループ各社 代表取締役社長
選考委員	柳澤 正義 秋山 洋 堀口 雅子 興梠 寛 入村 瑠美子	国立成育医療センター 名誉総長 国立小児病院 名誉院長 虎ノ門病院産婦人科 元医長 社会福祉法人世田谷ボランティア協会 理事長 国際医療福祉大学 グループ看護教育顧問 保健学部看護学科 講師



タレント
KONISHIKI

McDonald's has always been a leader in giving back to the community. Japan needs more people and companies contributing back to make it a healthier and safer place to live.

I hope that the Donald McDonald House continues its efforts without end so that many families will be aided by its help, especially ill children and their families.

Aloha mahalo,

マクドナルドは常に、社会貢献活動においてリーダー的存在です。

みんなが健康で安心して過ごせる社会をつくっていくには、多くの人々や企業の協力が必要です。

マクドナルド社の社会貢献活動を通じて「ドナルド・マクドナルド・ハウス」が今後も病気の子どもとその家族をサポートし続けることを願っています。



国立成育医療センター
看護部長 斎藤理恵子

私たちの仕事は小児の患者様の治療はもちろんのこと、ご家族の様子にも気を配ることだと考えています。特に入院の場合は、ご家族の体調やお家で過ごしている同胞のことについても気をつかうことがしばしばです。そんなご家族にとってドナルド・マクドナルド・ハウスは強い味方です。遠くから入院されている患者様にとっては、外出や外泊のときにご家族と一緒に過ごすことができる大切な場所です。



イフボット

僕は、病院で難病と闘っているお友達のそばに一緒にいて、話し相手になりながら、さびしさやつらさをまぎらわせているコミュニケーションロボットです。いま僕は、せたがやハウスと、とちぎ子ども医療センターにいます。病院にいるお友達は、みんな早く元気になって学校のお友達と遊びたい、早くおうちに帰って家族と一緒に過ごしたいと感じています。一人でも多くのお友達の願いが叶うように、僕はみんなを毎日勇気づけていきます。

©2004 Business Design Laboratory Co.,Ltd.

Financial report

決算報告

収支計算書

平成18年1月1日から12月31日まで (単位：円)

科 目	本年度予算額	決 算 額	増 減
I 収入の部			
1 基本財産運用収入	30,000	0	30,000
2 ハウス事業収入	(18,913,000)	(21,891,164)	(△2,978,164)
宿泊料収入	18,750,000	20,538,800	△ 1,788,800
その他の収入	163,000	1,352,364	△ 1,189,364
3 寄附金収入	(200,000,000)	(232,995,187)	(△32,995,187)
寄附金収入 (マクドナルド)	100,000,000	115,887,250	△ 15,887,250
寄附金収入 (サプライヤー)	15,000,000	28,891,440	△ 13,891,440
寄附金収入 (フランチャイズ)	0	0	0
寄附金収入 (一般)	15,000,000	20,105,965	△ 5,105,965
募金収入	70,000,000	68,110,532	1,889,468
3 基金取崩収入			
ハウス建設基金取崩収入	20,000,000	0	20,000,000
4 雑収入	(740,000)	(593,520)	(146,480)
配当収入	450,000	592,213	△ 142,213
その他収入	290,000	1,307	288,693
当期収入合計 (A)	239,683,000	255,479,871	△ 15,796,871
前期繰越収支差額	286,514,273	286,514,273	0
収入合計 (B)	526,197,273	541,994,144	△ 15,796,871

II 支出の部

1 事業費	(107,875,000)	(92,101,402)	(15,773,598)
(1) ハウス事業運営費	(103,875,000)	(88,641,402)	(15,233,598)
給料手当	33,002,000	29,154,606	3,847,394
光熱水料費	21,085,000	17,537,939	3,547,061
租税公課	21,660,000	14,275,630	7,384,370
その他の経費	23,128,000	23,600,938	△ 472,938
ボランティア普及費	5,000,000	4,072,289	927,711
(2) ボランティア事業	(4,000,000)	(3,460,000)	(540,000)
ボランティア助成費	3,000,000	1,460,000	1,540,000
ボランティア研修費	1,000,000	2,000,000	△ 1,000,000
2 管理費	(66,325,000)	(58,784,764)	(7,540,236)
給料手当	42,600,000	35,525,537	7,074,463
旅費交通費	8,410,000	6,757,289	1,652,711
会議費	420,000	464,594	△ 44,594
通信運搬費	3,601,000	2,991,600	609,400
消耗品費	6,194,000	7,221,526	△ 1,027,526
諸会費	0	0	0
諸謝金	1,670,000	963,500	706,500
雑費	3,430,000	4,860,718	△ 1,430,718
3 固定資産取得支出	(40,000,000)	(2,919,000)	(37,081,000)
ハウス建設支出	0	0	0
構築物購入支出	0	1,585,500	△ 1,585,500
什器備品購入支出	20,000,000	1,333,500	18,666,500
建設仮勘定支出	0	0	0
ハウス建設基金積立支出	20,000,000	0	20,000,000
4 予備費	6,000,000	0	6,000,000
当期支出合計 (C)	220,200,000	153,805,166	66,394,834
当期収支差額 (A－C)	19,483,000	101,674,705	△ 82,191,705
次期繰越収支差額 (B－C)	305,997,273	388,188,978	△ 82,191,705

貸借対照表

平成18年12月31日現在 (単位：円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1 流動資産	
現金	1,542,138
普通預金	396,094,304
郵便貯金	2,957,663
未収金	0
流動資産合計	400,594,105
2 固定資産	
基本財産	
基本財産定期預金	300,000,000
基本財産土地	222,680,900
基本財産合計	522,680,900
その他の固定資産	
建物	1,546,167,867
構築物	14,002,130
什器備品	43,411,240
ソフトウェア	3,831,039
電話加入権	76,440
建設仮勘定	0
投資有価証券	28,050,000
その他の固定資産合計	1,635,538,716
固定資産合計	2,158,219,616
資産合計	2,558,813,721
II 負債の部	
1 流動負債	
預り金	0
流動負債合計	0
2 固定負債	
固定負債合計	0
負債合計	0
III 正味財産の部	
正味財産	2,558,813,721
(うち基本金)	(522,680,900)
(うち当期正味財産増加額)	(104,593,705)
負債及び正味財産合計	2,558,813,721

正味財産増減計画書

平成18年1月1日から12月31日まで (単位：円)

科 目	金 額
I 増加の部	
1 資産増加額	
当期収支差額	101,674,705
建物増加額	0
構築物増加額	1,585,500
什器備品増加額	0
ソフトウェア増加額	1,333,500
建設仮勘定増加額	0
ハウス建設積立預金増加額	0
投資有価証券受贈額	0
2 負債減少額	0
増加額合計	104,593,705
II 減少の部	
1 資産減少額	
当期収支差額	0
ハウス建設積立預金減少額	0
建物減価償却額	0
構築物減価償却額	0
什器備品減価償却額	0
ソフトウェア減価償却額	0
建設仮勘定減少額	0
2 負債増加額	0
減少額合計	0
当期正味財産増加額	104,593,705
前期繰越正味財産額	2,454,220,016
期末正味財産合計額	2,558,813,721

財産目録		平成18年12月31日現在		(単位：円)
科	目	金	額	
Ⅰ 資産の部				
1 流動資産				
現金預金				
現 金	現金手許有高	1,542,138		
普通預金	みずほ銀行新宿新都心支店	425,751		
	みずほ銀行成城支店	3,345,758		
	杜の都信用金庫宮城町支店	380,706		
	四国銀行高須支店	267,259		
	りそな銀行千里北支店	509,630		
	足利銀行	490,266		
	三井住友銀行麹町支店	390,674,934		
郵便貯金		2,957,663		
未 収 金	定期預金利息	0		
流動資産合計		400,594,105		
2 固定資産				
(1) 基本財産				
定期預金	あおぞら銀行本店	300,000,000		
土 地	東京都世田谷区大蔵	222,680,900		
基本財産合計		522,680,900		
(2) その他の固定資産				
建 物	宿泊施設	1,546,167,867		
構 築 物	ハウス看板等	14,002,130		
什器備品	家財及び事務機器等	43,411,240		
ソフトウェア	会計ソフト及びホームページ	3,831,039		
電話加入権	施設設置電話	76,440		
建設仮勘定		0		
投資有価証券	マクドナルド株式	28,050,000		
その他の固定資産合計		1,635,538,716		
固定資産合計		2,158,219,616		
資産合計			2,558,813,721	
Ⅱ 負債の部				
1 流動負債				
預 り 金	源泉所得税	0		
流動負債合計		0		
負債合計			0	
正味財産			2,558,813,721	

計算書類に対する注記

1 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法について
投資有価証券…総平均法による原価基準を採用している。
- (2) 固定資産の減価償却について
建物及びソフトウェア…減価償却は実施していない。
構築物及び什器備品……減価償却は実施していない。
- (3) 資金の範囲について
資金の範囲には現金・郵便貯金・未収金・前払金、及び
預り金・未払金・ハウス建設積立預金を含めることとし
ている。
尚、前期末及び当期末残高は3に記載の通りである。
- (4) 消費税の会計処理は税込み方式によっている。
- 2 基本財産の当期中における増減の発生は無い。

3 次期繰越収支差額の内容は次の通りである。(単位：円)

科	目	前期末残高	当期末残高
現 金		363,727	1,542,138
普通預金		240,888,189	396,094,304
郵便貯金		58,132,324	2,957,663
未 収 金		30,000	0
合 計		299,414,240	400,594,105
預 り 金		494,840	0
ハウス建設積立預金		12,405,127	12,405,127
合 計		12,899,967	12,405,127
次期繰越収支差額		286,514,273	388,188,978

4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次の通りである。

(単位：円)				
科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高	
建 物	1,555,439,214	9,271,347	1,546,167,867	
構 築 物	14,828,722	826,592	14,002,130	
什器備品	49,803,005	6,391,765	43,411,240	
ソフトウェア	4,151,600	320,561	3,831,039	
合 計	1,624,222,541	16,810,265	1,607,412,276	

監査報告書

財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・
チャリティーズ・ジャパン
理事長 開原 成允 殿

平成19年2月23日

財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・
チャリティーズ・ジャパン

監事 吉野賢治

監事 二村隆章

財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンに係わる平成18年1月1日から平成18年12月31日までの会計年度（第8期）の事業報告及び決算に関する計算書類を監査した結果、いずれも適法正確であり、かつ、収支の状況、財団の運用状況も正しく処理されているものと認めます。

以上

Our supporters

サポーター紹介

日本コカ・コーラ株式会社

代表取締役社長

ダニエル・H・セイヤー

Daniel H. Sayre

Representative Director & President

Coca-Cola (Japan) Co., Ltd.



ザ コカ・コーラ カンパニーは、世界各国でドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズの活動を支援しており、日本でも同様に同財団の活動を支援させていただけることは私どもの誇りであり心から光栄に存じております。私どもは、これからも財団の活動支援を通じて、地域社会に根ざした企業市民として「いつでも。どこでも。だれにでも。」さわやかさとうるおいを提供して参りたいと願っております。

We are proud of and it is our great honor to support the Donald McDonald House Charities Japan, in the same way that we support our valued partner, Donald McDonald House Charities, globally. Through this support, we will continue to pursue our mission through refresh people "anywhere, anytime, everybody," throughout the country, as a corporate citizen rooted in local communities nationwide.

日本マクドナルド株式会社

代表取締役会長兼社長兼CEO

原田 泳幸

Eikoh Harada

McDonald's Company (Japan), Ltd

Chairman, President and CEO

Representative Director



マクドナルドは世界規模で子どもたちの幸せを祈って様々な支援活動を行っています。ドナルド・マクドナルド・ハウスへの支援もその活動の大きな柱として設立当初から今日に至るまで、さまざまなかたちで積極的にサポートして参りました。

日本では現在難病と闘っている子どもの数は20万人ともいわれています。家から遠く離れ入院されているお子さまとご家族が1日でも早く笑顔を取り戻せるよう、私どもは今後ともこの活動を支えていく所存です。これから多くの企業・個人の方がこの支援の輪に加わってくださるよう願っております。

McDonald's has been engaged in various initiatives to support children's happiness all over the world. And we have positively supported Donald McDonald Houses in various way since its foundation as one of the major pillars of these initiatives.

In Japan, the number of children presently suffering serious illness is estimated to reach into 200,000. We will continue to assist the Donald McDonald Houses' efforts in making these children hospitalized away from home and their families smile again as soon as possible. And I wish many companies and individuals to join us in our efforts to support the Donald McDonald Houses.

■ Gold Sponsors

日本コカ・コーラ株式会社

日本マクドナルド株式会社

■ Silver Sponsors

株式会社イナ・ベーカーリー

ケンコーマヨネーズ株式会社

スターゼン株式会社

デルマール株式会社

東京コカ・コーラボトリング株式会社

凸版印刷株式会社

株式会社富士エコー

フジパングroup本社株式会社

THE BOEING COMPANY

Major League Baseball

Major League Baseball Players Association

森永乳業株式会社

■ Bronze Sponsors (企業)

株式会社アートコーヒー

有限会社青猫商店あおねご会員一同

株式会社アクセンス・テクノロジー

株式会社A D E K A

株式会社アメリカ

株式会社アルゴ

伊藤ハム株式会社

植田製油株式会社

エーオンリスクサービスジャパン株式会社

株式会社NHKエデュケーション

株式会社エフエム東京

F C リート・アドバイザーズ株式会社

M L A 豪州食肉家畜生産者事業団

大山観光株式会社

オキコ株式会社

カゴメ株式会社

株式会社カマタ

キュービー株式会社

近畿コカ・コーラボトリング株式会社

株式会社経営塾フォーラム

高知市立高等看護学院みずき会

コカ・コーラセントラルジャパン株式会社

コカ・コーラウエストジャパン株式会社

国立成育医療センター周産期診療部

埼玉養蜂株式会社

逆瀬川住研株式会社

佐久浅間農業協同組合

さわかみ投信株式会社勉強会神戸

三洋コマーシャル販売株式会社

株式会社 J-WAVE

四国コカ・コーラボトリング株式会社

自治医科大学附属病院経営管理課

自治医科大学移植外科

自治医科大学合同部課長会

自治医科大学小児科学教室

自治医科大学附属病院看護部

自治医科大学附属病院看護部職員

株式会社シモジマ

浄土宗児童教化連盟宮城支部

新日本監査法人

住金物産株式会社

西南開発株式会社

株式会社西武百貨店

積水化成品工業株式会社

仙台コカ・コーラボトリング株式会社

仙台Ⅱソントクラブ

株式会社セントラルカッティング

大ー紙工株式会社

大昭和紙工業株式会社

大同印刷株式会社

株式会社電通

東亜レジン株式会社

東耀興業株式会社

東京ガス・エンジニアリング株式会社

株式会社東京サーベイ・リサーチ

東京リース株式会社

東京リースグループ社会貢献基金ティーボットクラブ

利根コカ・コーラボトリング株式会社

長崎県立佐世保商業高校

長崎県立長崎南高等学校

株式会社長崎新聞社

株式会社中西製作所

株式会社名古屋光商事

新村印刷株式会社

西山ステンレスケミカル株式会社

株式会社ニットク

株式会社日本デキシー

日本ハーデス株式会社

社団法人日本マーケティング協会

日本マクドナルド栃木オーナー会

株式会社 B S 日本

ビーコンコミュニケーションズ株式会社

美容総合リース株式会社

株式会社ブラップジャパン

ブルーマチックジャパン株式会社

株式会社法研

町田歯科クリニック

松下電器産業株式会社

株式会社マルマサフード

三国コカ・コーラボトリング株式会社

南九州コカ・コーラボトリング株式会社

三井物産株式会社

株式会社ミュージックバード

明治乳業株式会社

明治安田生命保険相互会社高知支社

メロディアン株式会社

UCC 上島珈琲株式会社

理工協産株式会社

■ Bronze Sponsors (個人)

明石紫都子

長瀬 淑子

池内 廣子

中田 早苗

伊勢 康男

原田 泳幸

岩崎 優

菱沼 秀仁

浦田久美子

平林 泰彦

大岡吉一郎

廣瀬 修

岡野 薫

北東 哲也

岡本 実

細木 南美

奥居 重勝

町田 賢子

開原 成允

松澤 登

笠島 努

目黒 あき

樫葉 武司

本橋 輝男

北田 善保

桃井真里子

Craig Leonard

柳澤 正義

後藤 嘉文

山崎 るみ

佐々木栄里

山下 安信

澤村 幸恵

山本 美和

島田 和幸

吉岡 えみ子

島田 浩三

吉岡 佑樹

菅原 康志

吉田 弘正

鈴木 勝己

吉野 賢治

高久 史磨

好本 一郎

豊永 正子

若山 勝巳

中澤 敏彦

(五十音順)

上記の以外にチャリティーゴルフでは深堀圭一郎プロをはじめ、多くのプロゴルファーに、そしてチャリティーコンサートでは、石井竜也さんをはじめ、多くのアーティストの方に多大なるご協力をいただいています。

皆さまからのご支援により多くの病気の子どもとその家族に笑顔を届けることができました。ご支援いただいたすべての方に心より感謝いたします。